

命の経験の第四段階へと入り、
完全に成長した人に到達して神の定められた御旨を完成する

(土曜日——午後の部)

メッセージ 9

完全に成長した人に到達する (3)

神の執事職を遂行してキリストの中で完全に成長したすべての人をささげ、
そして一人の新しい人の感覚の中で召会生活を実行する

聖書：コロサイ 1:24-29. 3:10-11. 4:7-17

I. わたしたちは完全に成長した人に到達して神の定められた御旨を完成するために、神の執事職を遂行してキリストの中で完全に成長したすべての人をささげる必要があります——コロサイ 1:24-29 :

A. 神のエコノミーは、神の執事職となってすべての信者に与えられました——エペソ 3:2, 9. コロサイ 1:25 :

1. エペソ第3章において、パウロは二つの意味を持つ「オイコノミア (oikonomia)」というギリシャ語を用いています :

a. 神に対して、「オイコノミア」は神のエコノミーを指します——9節。

b. わたしたちに対して、「オイコノミア」は執事職を指します——2節。

2. 神の執事職は、神のエコノミーにしがっています。神について、それはエコノミーの事柄であり、わたしたちについて、それは執事職の事柄です。

3. 諸召会において責任を担う者たちは、神の執事職にあずかる必要があります——テトス 1:7, 9 :

a. 長老たちは率先してキリストの豊富を人の中へと分与すべきです。

b. 主の回復において率先する者、諸召会を顧みる責任を持つ者はみな、そのような神聖な執事職に分を持っていることを認識する必要があります。

B. わたしたちが神の執事職を遂行しようとするなら、わたしたちの福音を宣べ伝える観念は引き上げられる必要があります——I コリント 9:16-17. マタイ 28:19-20 :

1. 新約エコノミーを実行する神の定められた道の第一の面は、罪人がいる所で彼らと接触することによって、彼らを救うことです——ルカ 19:1-10。

2. わたしたちが福音を宣べ伝えるべきであるのは、単に魂を勝ち取るためだけではなく、神を人の中へと分与することによって、神のエコノミーのために神の執事職を遂行するためでもあります。

3. わたしたちは出て行って、諸国民を弟子とし、彼らをキリストのからだの肢体としなければなりません。この執事職はキリストのからだ全体に与えられました——マタイ 28:19-20。

C. わたしたちはパウロの模範に従い、神の執事職にしがって忠信に召会に仕える者となる必要があります——I テモテ 1:16. コロサイ 1:24-25. I コリント 4:1-5 :

1. 執事は家庭の管理人、分与する者、家庭の供給をその家の人に分与する者です。使徒たちは主によって任命されてそのような執事となり、神の奥義を分与します。

神の奥義は信者たちにとって、神の奥義としてのキリストと、キリストの奥義としての召会です——コロサイ 2:2. エペソ 3:4. I コリント 4:1。

2. パウロが神の執事職に関連して、キリストの苦しみについて述べたことは、執事職が苦難を通してのみ遂行されることができていることを示しています——コロサイ 1:24. I ペテロ 4:1, 10. II コリント 6:4. 参照、詩 91:1-2. 31:20。

3. パウロのように、わたしたちは労苦し奮闘して、キリストの中で完全に成長したすべての人をささげる必要があります——コロサイ 1:28-29 :

a. わたしたちはキリストの中で完全に成長したすべての人をささげるために、聖徒たちの分け前としてのキリスト、また神のエコノミーの中心性と普遍性であるすべてを含む方としてのキリストを、彼らに供給しなければなりません—— 12, 15, 18-19, 27 節. 2:3, 9, 16-17. 3:4, 11。

b. わたしたちはキリストの中で完全に成長したすべての人をささげるために、キリストの計り知れない豊富を供給して、召会を建造し、神の永遠の定められた御旨を成就しなければなりません——エペソ 3:8-11。

c. わたしたちはキリストの中で完全に成長したすべての人をささげるために、キリストと召会の満ち満ちた啓示を伴う神の言を完成しなければなりません——コロサイ 1:25-28。

d. わたしたちはキリストの中で完全に成長したすべての人をささげるために、神の奥義としてのキリストを供給しなければなりません—— 2:2, 9。

e. わたしたちはキリストの中で完全に成長したすべての人をささげるために、キリストの奥義としての召会に供給しなければなりません——エペソ 3:4. 1:22-23。

f. わたしたちはキリストの中で完全に成長したすべての人をささげるために、命としてのキリストを彼の肢体に供給しなければなりません。それは、彼らが彼によって生き、彼と共に成長して円熟に至るためです——コロサイ 3:4. ヨハネ 6:57. 14:19. ガラテヤ 2:20. エペソ 4:13, 15。

II. わたしたちは完全に成長した人に到達して神の定められた御旨を完成するために、一人の新しい人の感覚の中で召会生活を実行する必要があります—— 13 節. コロサイ 3:10-11. 4:7-17 :

A. 使徒行伝での召会に関する記録は、信者たちが召会の感覚を持っていたことを啓示します—— 5:11. 8:1, 3. 9:31. 11:22, 26. 12:1, 5. 13:1. 14:23, 27. 15:3-4, 22, 41. 16:5. 18:22. 20:17, 28。

B. わたしたちはからだの感覚を持つ必要があります—— I コリント 12:26-27. ローマ 12:15. エペソ 4:16. 2:21-22 :

1. わたしたちは、からだの他の肢体と共に生活し、行動するために、からだの感覚を持つ必要があります。

2. 主の回復において、地方的な面と宇宙的な面における主の行動のために、わたしたちはみな一つ思いの中でからだの感覚を持つ必要があります——使徒 1:14. 2:46. 4:24. 15:25. ローマ 15:6。

3. わたしたちは、からだの感覚を持てば持つほど、ますますからだの感覚を顧慮し、

からだの平安を顧慮するようになります—— 12:4-5, 15. I コリント 12:26. エペソ 2:14-16. 4:3. コロサイ 3:15。

C. パウロは宇宙的な一人の新しい人の感覚を持っていました。今日の主の回復において、わたしたちも一人の新しい人の感覚を持つ必要があります——エペソ 4:24. コロサイ 3:10-11 :

1. パウロは神のエコノミーにおける忠信な執事であり (I コリント 4:1-2. 9:16-17)、一人の新しい人の感覚を持っていたので、彼の心の中にあっただけは、単に特定の地方召会や特定の聖徒だけではなく、宇宙的な一人の新しい人でした——コロサイ 3:10-11. 4:7-17。
2. コロサイ第 4 章 7 節から 17 節は、一人の新しい人の啓示と一人の新しい人の感覚の実例です：
 - a. コロサイにいる聖徒たちとパウロ、またパウロと共にいた者たちは、実際ににおいて一人の新しい人の肢体であり、一人の新しい人の感覚を持っていました。
 - b. 手紙を読むことに関するパウロの言葉は、ラオデキヤに在る召会とコロサイに在る召会の間には何の違ひもないことを証明します。彼の言葉は交わり、一、調和、親密な接触を暗示します—— 16 節。
 - c. 国籍、種族、階級のすべての区別が依然として存在したにもかかわらず、キリスト・イエスの中で創造された一人の新しい人が実際に地上に出現しました。各都市には地方召会があっただけではなく、真実で実際的な一人の新しい人がありました。

D. わたしたちは、さまざまな国におけるすべての地方召会が一人の新しい人であることを見る必要があります——エペソ 2:15, 21-22 :

1. すべての召会は単なる個別の地方召会ではなく、一人の新しい人です——コロサイ 3:10-11. 4:15-16。
2. わたしたちは、各地方召会が新しい人であるとは言えません。そうではなく、地上にあるすべての地方召会が一人の新しい人です：
 - a. 一人の新しい人は地方的ではなく、宇宙的で。
 - b. 一人の新しい人は単に個別の地方や個別の召会の事柄だけではなく、地上にあるすべての召会の団体的な事柄でもあります。
3. すべての地方召会が一人の新しい人であるので、わたしたちは自分の地方召会において事柄を決定するとき、全地の至る所にある召会を考慮する必要があります——啓 22:16 前半. I テサロニケ 2:14. ローマ 16:4. II コリント 11:28。

務めからの抜粋 :

神の執事職

今日のキリスト教で、神の執事職を遂行する奉仕者や働き人は多くありません。これは、キリストの豊富を神の王家の人たちの中へと実際に分与している人は多くいないことを意味します。この豊富な、すべてを含む、首位のキリストが、彼のからだの肢体の中へと分与されるために、神の執事職が必要とされます。

この執事職は新約における務めです。新約の務めは、すべてを含むキリストの計り知れない豊富を神の家族の人の中へと分与することです。使徒パウロはキリストの豊富を聖徒

たちの中へと分与しました。これは、わたしたちが今日、務めの中で行なっていることです。

神の執事職は神のエコノミーにしたがっています。神について、それはエコノミーの事柄であり、わたしたちについて、それは執事職の事柄です。すべての聖徒たちは、たとえどんなに重要でないように見えても、神のエコノミーにしたがった務めを持っています。これは、すべての聖徒たちがキリストの豊富を人の中へと分与することができることを意味します。

神の心の願いは、ご自身を人の中へと分与することです。これが全聖書の中心点です。神のエコノミーは、ご自身を人の中へと分与することを遂行することです。わたしたちは、わたしたちの執事職、すなわちキリストの豊富を分与する務めを通して、このエコノミーにあずかるのです。キリストの豊富がわたしたちの中へと分与された後、わたしたちは負担を取って、それらを人の中へと分与する必要があります。神について、これらの豊富は彼のエコノミーです。わたしたちについて、それらは執事職です。それらはわたしたちによって人の中へと分与されるとき、神の分与となります。神のエコノミーがわたしたちに届くとき、それはわたしたちの執事職となります。わたしたちがキリストを人の中へと分与することによって、わたしたちの執事職を遂行するとき、それは神を彼らの中へと分与することになります。ですから、エコノミー、執事職、分与があります。

諸地方召会において責任を担う者たちは、神の執事職にあずかる必要があります。これは、長老たちが率先してキリストの豊富を人の中へと分与する者となるべきであることを意味します。キリストはすべてを含み、首位ですが、神の家族の人たちの中へと分与される必要がなおあります。この分与が起こるのは執事職を通してです。ですから、計り知れない豊富なキリストとからだの肢体との間に、執事職の必要があるのです。主の回復において率先する者、諸召会を顧みる責任を持つ者はみな、そのような神聖な執事職に分を持っていることを認識する必要があります。わたしたちはここで、普通のキリスト教の働きをしているわけではありません。例えば、わたしたちは外側の方法で聖書を教えることだけに興味があるわけではありません。むしろ、わたしたちはキリストの豊富を神の家族の全員に供給することを願うのです。互いの会話の中で、わたしたちはキリストの豊富を供給する必要があります。聖徒たちの家に夕食に招かれる時でさえ、キリストの豊富を分与する必要があります。これが神の執事職です。

キリストのからだのすべての肢体は、この執事職に分を持っています。エペソ人への手紙第3章8節でパウロは彼自身を、「すべての聖徒のうちで最も小さい者よりも小さい」と言っています。これは、パウロがわたしたちよりさらに小さかったことを示しています。パウロが執事になることができたなら、わたしたちも執事になり、キリストの豊富を人の中へと分与することができるのです。例えば、福音を宣べ伝えるとき、わたしたちは魂を勝ち取ることだけに興味があるべきではありません。むしろ、わたしたちは福音を宣べ伝えて、キリストの豊富を人の中へと分与するという執事職を遂行すべきです。日ごとに三一の神を人の中へと分与することによって、わたしたちの執事職を果たす必要があります。主を賛美します、わたしたちはみなこの執事職にあずかっています！ わたしたちはみな、キリストの計り知れない豊富を人の中へと分与する特権を持っています。ですから、わたしたちは単に福音を宣べ伝えたり、聖書を教えたりすべきではありません。わたしたちは

またキリストの豊富を他の人に分け与えるべきです。

主がわたしたちの目を開いて、わたしたちがみな神の執事職に分があることを見せてくださいますように。実際の召会生活のあらゆる面で、接待係や集会所を掃除するようなことでさえ、わたしたちはキリストを人の中へと分与する必要があります。まず、わたしたちはキリストで満たされ、そしてキリストの豊富を人に供給する必要があります。これがわたしたちの執事職です。(コロサイ人への手紙ライフスタディ、第 11 編)

キリストの中で完全に成長したすべての人をささげる

コロサイ人への手紙第 1 章 28 節でパウロは、キリストを告げ知らせたと言っています。ここでパウロは、キリストを教えた、あるいはキリストを宣べ伝えたと言うのではなく、キリストを告げ知らせたと言っています。彼はキリストを告げ知らせたとき、「知恵を尽くしてすべての人を戒め、すべての人を教えて」いました。それは、「キリストの中で完全に成長したすべての人を、ささげる」ためでした。パウロの務めは、キリストを告げ知らせることであっても、知恵を尽くしてすべての人を戒め、教えることであっても、キリストを人に供給することでした。それは、彼らがキリストをもって円熟することによって成就され完全にされ、完全な成長へと至ることができるためです。

キリストの中で完全に成長することは命の事柄です。キリストはわたしたちの中へと加えられなければなりません。それからわたしたちはキリストの中で成長し、徐々にキリストの身の丈の増し加わりを得る必要があります。最終的に、キリストがわたしたちの中へと造り込まれるとき、わたしたちはキリストの中で完全に成長するでしょう。

パウロの務めの目標は、キリストの中で完全に成長したすべての人をささげることでした。この節で使われたような、「完全に成長したすべての人を、ささげる」という句を考えると、わたしはいつも、わたしは何と自分が欠けているかを感じます。わたしは自分の務めに関して、内側でその霊によって警告されます。わたしは、キリストの中で完全に成長した人を、何人ささげることができるのかについて気がかりです。この責任の負担がわたしの上に重くのしかかるのです。わたしは、キリストを告げ知らせ、キリストに関して人を警告し、教えて、キリストの中で完全に成長した人をささげることができるようにと、内側で命じられています。

第 1 章 28 節でのパウロの観念は、今日のキリスト教の伝道者や牧師が抱いている観念とは完全に異なります。パウロの務めに関する観念は、キリストを人の中へと分与し、人がキリストの中で成長して円熟することでした。彼は、キリストが信者たちの中へと加えられて、彼らがキリストの中で完全に成長するに至らなければならないことを知っていました。わたしたちはパウロと同じ観念を持つ必要があります。長老たちは召会の中で聖徒たちを顧みて、キリストの中で完全に成長したすべての愛する人を、ささげることを追求めるべきです。(コロサイ人への手紙ライフスタディ、第 14 編)

新しい人の感覚

コロサイ人への手紙第 4 章 7 節から 17 節にどれほど多くの名が述べられているか、考えてみてください。テキコ、オネシモ、アリストアルコ、マルコ、バルナバ、ユスト、エパfras、ルカ、デマス、ヌンパ、アルキボです。パウロはまた、ラオデキヤにいる兄弟た

ち、ヌンパの家にある召会、すなわちラオデキヤ人の召会にも言及しています。(ヌンパの家にある召会は、ラオデキヤに在る地方召会でした。それは彼の家で集会していました)。これらすべての名は、パウロが新しい人の意識、感覚を持っていたことを示しています。

地上で実際的に生活していたこの新しい人は、文化と社会的身分によれば、ギリシャ人、ユダヤ人、割礼、無割礼、未開人、スクテヤ人、奴隷、自由人である者から成っていました。しかしながら、すでに指摘したように、新しい人の実際の構成はキリストであり、キリストだけです。キリストが新しい人の唯一の構成要素であるので、この新しい人の一部である信者たちの間に、何の違いもあるべきではありません。

さらに、諸召会の間には何の違いもあるべきではありません。例えば、ラオデキヤに在る召会とコロサイに在る召会の間には何の違いもありません。これは、手紙を読むことに関するパウロの言葉で証明されます、「そして、この手紙があなたがたの間で読まれたなら、ラオデキヤの召会でも読まれるようにしてください。またあなたがたも、ラオデキヤからの手紙を読んでください」(16 節)。パウロがコロサイ人に書いたものは、ラオデキヤ人のためでもあり、ラオデキヤ人に書いたものは、コロサイ人のためでもありました。これは何という交わり、一、調和、親密な接触を暗示していることでしょうか！

新しい人の描写

これらの十一の節を読み通すとき、それらは地中海一帯で生活している新しい人の詳細の描写であることを見いだします。新しい人が実際的に存在し生きていることは、重大な意義のある事柄です。ローマ帝国は広範な地域に及び、多くの種類の民を包含していました。ローマ帝国は民を文化的に結合することを企て、ギリシャ語を使用しました。しかしながら、ローマ帝国はさまざまな民を結合することに成功しませんでした。国民、人種、社会階級の間の違いが残りました。ユダヤ人はやはりユダヤ人であり、ギリシャ人はやはりギリシャ人でした。奴隷と主人との区別は決して除かれませんでした。しかし国籍、人種、階級の間すべての違いにもかかわらず、キリスト・イエスの中で創造された一人の新しい人が、実際に地上にいました。さまざまな都市に地方召会があっただけでなく、真実で、実際的な一人の新しい人がいました。(コロサイ人への手紙ライフスタディ、第 31 編)

からだは行動のためであり、新しい人は生きるためである

からだは命の事柄であり、新しい人はパースンの事柄です。からだは行動のためであり、活動のための手段です。ですから、主イエスがユダヤ人と異邦人の信者を神に和解させられたのは、一つからだの中ででした。この和解はからだの事柄です。過去わたしたちは、あなたが救われた時、あなたは神に和解させられ、わたしは救われた時、神に和解させられたとっていました。言い換えれば、わたしたちは個々に救われ、個々に神に和解させられたとっていました。これは誤った観念です。わたしたちは、神から遠く離れ、分離されていたわたしたちが、個人的にではなく団体の手段において、神に和解させられたことを見なければなりません。この手段とは何でしょうか？ この手段はキリストのからだです。一つからだの中で、ユダヤ人信者と異邦人信者は神に和解させられました。これは、

からだがキリストによって用いられた手段であることを見せています。

召会が福音を宣べ伝えるとき、これは行動です。この行動はからだの中にあり、からだによって成し遂げられます。わたしたちの体は、動くための手段です。わたしたちの命は増し加わって成長し、わたしたちの体が健康で十分に強くなって、わたしたちが動くための必要を満たす必要があります。

それでは、新しい人についてはどうでしょうか？ 新しい人は行動のためではありません。新しい人は決定するためであり、生活のためです。人としてあなたは全く動かなくても、やはり生きなければなりません。からだは動くためであり、新しい人は生活するためです。新しい人に関して、エペソ人への手紙第4章24節は、それは義と聖の中で、神にしたがって創造されたと言います。義と聖は、わたしたちの生活の条件です。ですから、生活は完全に新しい人の事柄です。新しい人は生活のためであり、わたしたちの生活の八割から九割は決定することにあります。ですから、あなたは二つの事を見ることができません。すなわち、からだとしての召会は動くためであり、新しい人としての召会は決定することによる生活のためです。一方で、召会はキリストのからだであって、わたしたちはキリストを命として行動し、働き、責任を担います。もう一方で、召会は新しい人であって、わたしたちはキリストをパースンとして計画し、どのように生きるべきかについて決定します。からだであっても新しい人であっても、働くことや動くことにあっても、生活することや決定することにあっても、すべては団体的であって、何も個人的ではありません。あなたは、今日のあなたの生活が新しい人の生活、団体の生活であり、あなたの決定が団体の決定であって個人の決定ではないことを見なければなりません。例えば、あなたが工場を始めるべきか、それとも教育者になるべきか決心して、結論を下そうとしているとします。ここにある種の生活があります。あなたが新しい人の一部分であることを見ているなら、そのパースンとしてのあなただけで決定したくないでしょう。あなたは、新しい人の他のすべての部分と共に、キリストをあなたのパースンとすることを望むでしょう。この時、あなたはあなたの人の生活に関して決定しようとする場合、あなた自身をあなたのパースンとしないでしょう。むしろ、あなたは新しい人の中でキリストをあなたのパースンとして決定するでしょう。あなたがキリストをあなたのパースンとすることによって生活するとき、あなたの生活は新しい人の生活となります。

新しい人の生活には二つの特徴があります。一つは義であり、もう一つは聖です。義は神の道にしたがっており、聖は神の性質にしたがっています。あなたの生活のすべての事が、大なり小なり、その性質において神の性質と全く同じであり、その道において神の道と全く同じであるとき、聖と義があります。しかしながら、このような生活は、キリスト教で言われている個人的な聖別の生活ではありません。むしろ、ここで言われているこのような生活は、あなたが新しい人の中でパースンとしてのキリストによって生活することであり、彼があなたの中ですべての決定をする方であるということです。こうして、生かし出されるものは何であれ義と聖です。これは、わたしたちの行動や働きとは関係ありません。それは生活とだけ関係があります。これが新しい人の面です。他の面は、からだです。からだとして、わたしたちは行動します。キリストはわたしたちのかしらであるので、わたしたちは行動します。そして、わたしたちの行動はわたしたち自身の強さやわたしたち自身の命に基づくのではなく、わたしたちの命と強さとしてのキリストに基づきます。

さらに、わたしたちの行動は個人としてではありません。

これら二つの事柄は、わたしたちが個人主義的にはなり得ないことを見せています。わたしたちは団体のからだであり、団体の新しい人であることを見なければなりません。わたしたちの生活は団体的であり、わたしたちの行動は団体的です。わたしたちの行動では、キリストをわたしたちの命とし、わたしたちの生活では、キリストをわたしたちのパーソンとします。からだの中で、キリストはわたしたちの命であり、新しい人の中で、キリストはわたしたちのパーソンです。からだの中で、わたしたちは互いに肢体であり、新しい人の中で、わたしたちはみな一つの口を持って同じ事を語ります。これが召会です。(一つからだ、一つ霊、一人の新しい人、第5章)